

<今月の表紙>

江刺甚句むすめ

5月3日、4日に開催される江刺甚句まつりのPR活動を担う「江刺甚句むすめ」の皆さんです。(左から)近藤真夏(みまな)さん、和泉咲紀(さき)さん、及川綾乃(あやの)さんは、昨年の25歳年祝連のメンバー。昨年受けたたくさんの方々の声援への感謝の気持ちを胸に、満開の笑顔で甚句を盛り上げてくれます。



CONTENTS

- | | | | |
|----|----------------------------------|----|--------------------|
| 2 | キラリ輝く奥州人 | 13 | ILC希望のひかり |
| 3 | 奥州市長小沢昌記 三期目の抱負 | 14 | 街diary |
| 4 | 市議会議員の紹介 | 16 | いいとこ、知っとこおうしゅう |
| 6 | 平成30年度予算の概要 | 17 | まなびの里 |
| 8 | Road to きらめきマラソン | 18 | もっと安心 ずっとおうしゅう |
| 9 | 「思い出カフェ」をご利用ください | | はい、こちら総合相談室 |
| 10 | 市民提案型協働支援事業(第1回審査分)補助金認定事業を公表します | 19 | トマス・アンナのあんなことこんなこと |
| | 市民活動支援センターの運営が変わります | | 姉妹都市 掛川だより |
| 11 | 地域おこし協力隊に新隊員が着任しました | 20 | インフォメーション |
| | 軽自動車税の納税通知書は5月2日に発送します | 24 | 奥州遺産 |
| 12 | 市営浄化槽設置申請の受付を始めました | | |
| | せいかつ百科 | | |

奥州市長小沢昌記 三期目の抱負

奥州市はひとつ 今こそ飛躍のとき

3月19日、奥州市長として3期目4年間の任期の初日を迎えるに当たり、持てる力の限りを市政運営に注ぐ決意をいたしました。過日の選挙戦で市民皆さまからいただいたご批判やご提言を心に刻み、また皆さまとの約束の一つ一つをしっかりと果たしていくことが私の使命と考えています。

12年の時を経て

奥州市誕生後の12年間は、旧市町村域ごとに地域自治区を設置して市町村合併による制度の激変を緩和し、また本市が抱える課題について着実に解決を進めてまいりました。

4月1日より地域自治区制度がなくなり、奥州市は一つの自治体として本格的に始動することになります。しかし現状は、少子高齢化、人口減少、逼迫した財政状況、都市間競争の激化など課題が山積みです。

今こそ飛躍のとき

この課題に適時・適切に対応するためマニフェストでは、地域コミュニティの充実に向けた「協働のまちづくり」、行政改革を含めた「総合計画の推進」、いわて奥州きらめきマラソンやカヌー大会を通じた「元氣創出のまちづくり」、認定こども園の整備や待機児

総合計画の実現

現在市は、総合計画に掲げる「地域の個性がひかり輝く自治と協働のまち 奥州市」を旗印に、6つの目標と「ILCプロジェクト」・「人口プロジェクト」の2つの戦略プロジェクトにより、奥州を担う子供たちの将来を、そして市

梅原 幸則 さん (23歳) =江刺男石一丁目= 老若男女、多くの人に 躍動感を届けたい



江刺の代表的な郷土芸能「鹿踊」。金津流野手崎獅子躍りに所属する梅原幸則さんは、その若き担い手だ。江刺の住民として、江刺甚句まつりや盃蘭盆など、鹿踊に触れる機会は多かったものの、見るだけだったという幸則さん。踊り始めたきっかけは、岩谷堂高校へ入学後、親友から鹿踊部に誘われたことだった。「担任の先生が同部の顧問だったのも影響した」と振り返る。



うめはら・ゆきのり◎平成6年、江刺生まれ。岩谷堂高校鹿踊部で部長を務めた。ことしの25歳年祝連・紫月琉の役員であり、江刺甚句まつりは年祝連として参加する。趣味はドライブ。

仲間たちとの週2回の練習。充実した日々を送る。理想の踊りを目指し、今は学びのときだと努力を続ける。野手崎獅子躍りの練習では、たくさんアドバイスが受けられ、恵まれた環境と感謝する。大きな舞台での発表が何より楽しいという幸則さんだが、春の百鹿大群舞は出られないため、夏を楽しみに待つ。「いろいろな人に見てもらいたい」という言葉には、情熱が込められていた。

民全での未来の創造に向けて邁進しています。ILCプロジェクトでは、その関わりを通じた持続可能な環境と共生したまちづくりの整備に向け、できることから着実に進めてまいります。また、人口プロジェクトでは、「奥州アピール元年」として昨年をスタートに、誇りと幸せを実感できるまちづくりの姿勢を強く市内外、そして世界に発信してまいります。

奥州市はひとつ

奥州市は誕生してまだ新しい市です。しかし、その背景には何十年と経験を重ねてき

た旧市町村の思いがあります。私たちはこれまでの経験をともに、奥州市を育て、新しい価値を与えていかなければなりません。市民一人一人が、市民と行政が、そして地域と地域が手を取り合い、互いに認め合いながら、「奥州市はひとつ」を心に、幸せを実感できるまちを目指して歩んでまいります。市民皆さまには、今後も市勢の発展に向け、より一層のご理解とご協力を心からお願い申し上げます。

奥州市長
小沢昌記

